

平成19年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

広島市立口田小学校

1 調査の目的

- (1) 全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の成果と課題を把握し、その改善を図る。

2 調査の実施日 平成19年4月24日(火)

3 調査実施学校数(公立学校)等

区分	調査実施校数(校)			調査実施者数(人)			
	国	県	市	国	県	市	学校
小学校第6学年	21,889	569	141	1,125,585	25,916	10,749	105
中学校第3学年	10,050	253	63	1,023,516	22,825	8,659	-

4 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数・数学)

主として知識に関する問題〔A問題〕

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として活用に関する問題〔B問題〕

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況及び体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

5 各教科の平均正答率

【小学校】

国語								算数							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
81.7	83.3	82.8	82.8	62.0	65.0	65.0	65.0	82.1	84.7	84.2	86.8	63.6	65.0	65.7	67.9

【中学校】

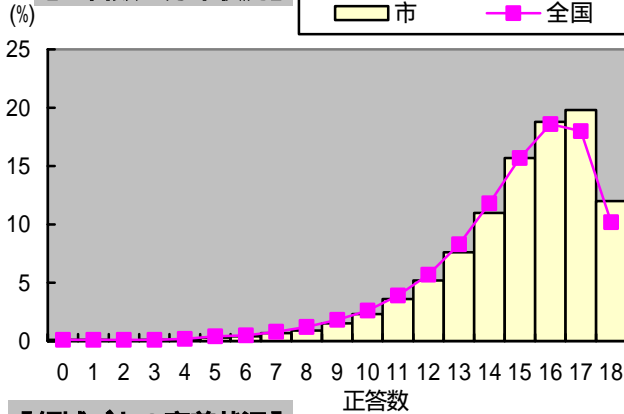
国語								数学							
A問題				B問題				A問題				B問題			
国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校	国	県	市	学校
81.6	82.4	81.9	-	72.0	72.0	72.0	-	71.9	73.3	73.6	-	60.6	60.6	60.6	-

6 各教科の調査結果の概要

【小学校国語】

国語A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話すこと・聞くこと	56.6	59.8	64.8
書くこと	85.3	86.6	89.5
読むこと	67.3	69.8	75.6
言語事項	86.8	87.7	86.1

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	81.6	82.8	82.8
短答式	81.8	83.3	82.6
記述式	-	-	-

定着状況

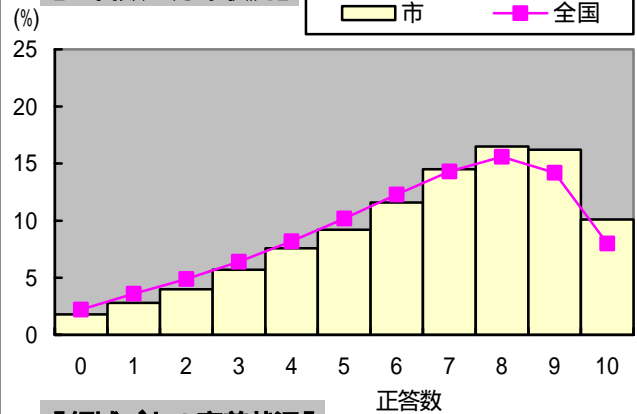
口田小学校の正答率を教科・領域・問題形式別に比較すると、全国や広島県の正答率を上回っている項目が多い。また全国を100と見る全国比は国語A 101 国語B 105 と活用する力の方が定着していることが分かった。

A 漢字を読む(平均98%)や、文脈に即した接続語を選択する(平均97%)は、高い正答率であった。

B 「司会者の進行のよいところを書く」設問(89.5%)は全国(79.0%)と比較して正答率が10%以上高く、学級会等でも取り組んでいることもあり、司会のよい進行のしかたは定着している。

国語B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話すこと・聞くこと	70.9	75.1	76.7
書くこと	61.7	63.7	63.8
読むこと	57.7	60.9	59.7
言語事項	77.0	77.5	80.0

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	62.8	64.3	71.4
短答式	62.4	66.5	64.5
記述式	62.1	64.7	64.4

課題

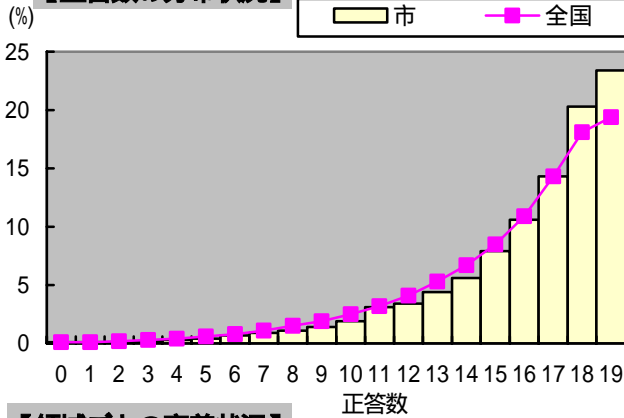
A 国の正答率より「漢字辞典の効率的な調べ方」を選択する問題が15%程度、「インタビューメモの工夫」を選択する問題が7%程度下回る結果となっている。

B 「情報の中から必要な事柄を取り出し、要約したり、書き換えたりする」ことについては、目的に応じた文章の書き方に関する技能が定着していないと考える。

【小学校算数】

算数A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と計算	81.5	84.4	85.7
量と測定	86.1	89.7	90.8
図形	86.1	87.9	90.5
数量関係	75.4	76.6	82.1

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	76.5	80.0	81.3
短答式	84.1	86.0	88.7
記述式	-	-	-

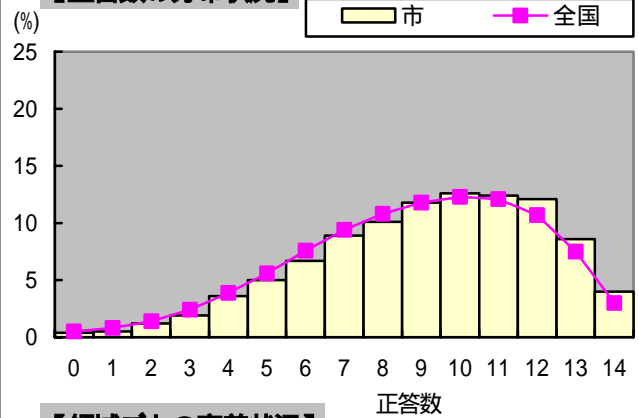
定着状況

口田小学校の正答率を教科・領域・問題形式別に比較すると、全ての項目で全国や広島県の正答率を上回った。また全国を100と見る全国比は算数A 106 算数B 107 であり、概ね算数科の基礎的・基本的内容については習熟できており、それらを活用する力も定着していることが分かった。

- A 同分母分数の加法や平行四辺形の面積を公式を活用して式化する問題(平均100%)は、高い正答率であった。
- B 「L字型の図形の面積の求め方を表す式をよみとる」問題(91.4%) 「棒グラフから人数の大小や人数の変化の様子をよみとる」問題(92.4%)は、高い正答率であった。

算数B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と計算	58.9	61.1	63.8
量と測定	58.0	60.5	62.9
図形	72.5	74.6	77.5
数量関係	65.5	67.7	69.5

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	73.0	75.3	77.1
短答式	73.7	75.7	80.2
記述式	45.0	47.2	49.0

課題

- A 問題を正しく読み、読み取ったことや数量の関係を絵や図に表すことや表した絵や図を根拠として考え方を説明することに課題があると考えられる。
- B 地図の中から公園の形を平行四辺形と認識し面積の求め方を説明する問題の正答率(17.1%)が低い。資料を分析し、必要な情報を取り出し、判断・熟考し、活用・表現していく力に課題が見られる。